

コミュニティケア

1

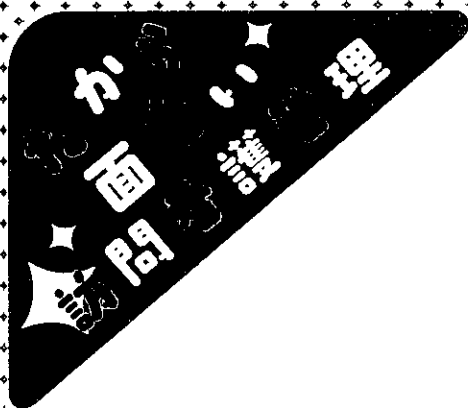
2021
年

月号

Nursing **now**

看護の力で健康な社会を！

Nursing Nowは、ナイチンゲール生誕200年を機に、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、人々の健康向上に貢献するために行動する世界的なキャンペーンです。日本看護協会は、日本看護連盟と連携し、「看護の力で健康な社会を！」をテーマに、キャンペーンに取り組んでいます。



山崎 和代 やまざき かずよ
社会福祉法人西宮市社会福祉事業団
訪問看護課 課長/訪問看護センター 管理者
認定看護管理者

西宮市訪問看護センター(兵庫県西宮市)は3カ所のサテライト事業を展開するステーション。山崎和代さんに、管理者としての日々の思い・考えを語っていただきます。

1 〈筆者が変わりました!〉

はじめまして!

私は1988年に看護師・保健師免許を取得し、大学病院・保健所を経て1994年に西宮市訪問看護センターに入職しました。訪問看護師1年目に阪神淡路大震災が起きたのを今でも鮮明に覚えています。2001年に管理者、2008年に統括兼管理者、2017年に認知症初期集中支援事業の管理業務に従事した後、2020年、管理者に戻りました。訪問看護師人生の仕上げの時期に突入した私の大きな目標は、“次世代育成”です。

今回、このコラムに何を書くべきかと係長に相談したところ「いつもここで言っていることを書けばよいのでは」と言われました。このアドバイスを素直に受け止めて、管理者としての立場で試行錯誤の日々や思いをお伝えしたいと思います。

◆当センターの概要

当センターは1992年に全国で最初に開設した訪問看護ステーションの1つで、「住み慣れた場所で最期まで過ごせる地域づくり」という理念を掲げて訪問看護を提供しています。開設した年は年間135人の利用者に2028件のサービス提供のみでしたが、2019年には1138人に4万829件訪問するようになりました。利用者は末期がん、神経難病、循環器疾患、精神疾患を持つ人が多く、スタッフは22～72歳まで総勢77人、平均年齢は40代です。

◆コロナ禍での新卒訪問看護師の育成

2020年4月に新卒で入職したNさん。例年は急

性期病院の新卒看護師と一緒に2クール16週間の病院研修に参加します。ここで同期との仲間づくりができるはずでしたが、新型コロナウイルス感染拡大による影響でかきませんでした。

今年度の当センターの育成方針は「自分で考え、指示を待たず、自分から必要と思うことをどんどん見つけて動く」です。Nさんは、入職当初から感染防止のための物品管理などで忙しいスタッフをサポートする役割を自ら買って出てくれました。また、PPEの着脱方法の練習を地道に重ねたことにより、トップクラスのスキルを身につけました。看護大学の教員からは「病院に入職した人は自宅待機になっているので、Nさんはいい経験ができています」と言われました。

ある日、Nさんの担当している利用者の状態が急に悪化しました。採血・点滴・酸素療法が必要になり、Nさんは家族から「チャンスができたね」「夫は寝たきりになっても人の役に立っている」と言われ、さらに、看取ったときには「きっとあなたに看取らせようと思ったのね。いいナースになって」と励ましの言葉をかけてもらっていました。訪問から戻って自席で号泣するNさんに、スタッフが寄り添っていました。私にとっても忘れられない1日になりました。

これまで、新卒1年目でNさんほどさまざまな経験をした人はいません。コロナ禍の新卒訪問看護師の育成には不安を感じていましたが、Nさんは順調にキャリアを積み重ねています。

